

## 日本自然保護協会

## 日本自然保護協会2003（平成15）年度事業報告

（2004年4月28日評議員会同意・同5月31日定例理事会承認）

## 2003（平成15）年度事業報告書

## 1.総合プロジェクト

## (1) 赤谷プロジェクト

## 1) 事業の具体化

群馬県三国地域を対象に、自然林・溪流環境保護を中心とした実効性を伴う地域環境管理の新規事業化に向け、基本計画案・基本ゾーニング案・企画運営体制案および予算確保案を策定。3回の準備会議を企画実施し、地域社会・新治村、林野庁・林野庁関東森林管理局に対して事業案を説明し連携を要請。2回の企画運営会議を経て、関東森林管理局長と約1万ヘクタールの国有林を地域と共同管理していくための協定を締結。

## 2) 先行自主活動

継続してきた猛禽類繁殖状況モニタリングの実施、土壌動物を指標とする地域自然モニタリングの試行、GISシステム試作等を行うとともに、協力研究者、調査に参加する地域研究団体等を募集、科学的観点からの環境管理基盤の構築を実施。

## 3) 社会系プログラム

持続的・地域社会づくり、会員拡大、環境教育ホームグラウンド化の目標に向け、村内在住者による地域団体、およびサポーターグループの設立と組織化を呼びかけ、活動をサポート。今後の地域環境管理と環境教育系プログラムに対する協力団体（群馬県立高校、専門学校、NACS-J普及事業含む）・協力個人（NACS-J会員、県内自然観察指導員、地域ナチュラリスト等）の募集を行うとともに、各種報道機関等に対し、今後の自然保護活動を提案する本事業に関する解説を適宜実施。

## 4) 環境教育系プログラム

自然観察指導員講習会を臨時開催（9/13～15、協力：新治村観光協会、会場：赤谷地域および新治村農村環境改善センター、登録者48名）。

## (2) 尾瀬プロジェクト

## 1) 至仏山問題

高山性植生の荒廃問題が地域自然保護団体・山岳団体等から提示され、社会問題化されたことに対し、尾瀬保護財団が設置した至仏山緊急対策会議に委員として参加。これまでとられてきた対症療法とは異なる保護と利用の方法の計画・実践の必要性、自然公園法に新設された「利用調整地区」への指定を視野に入れる必要性を述べ、群馬県との協力で現実的な検討の機構づくりに合意。

## 2) 受託プログラム / 至仏山環境共生推進計画調査(群馬県より受託)

研究者を中心とする専門委員会を設置し、至仏山保全基本計画の策定に着手。4つのテーマ別委員会を用意し、生態学的な現況把握とそれに基づいた植生保全・登山・登山道施設の方法の見直しを目標とした調査研究を開始。1年目にあたる2003年度は、状況把握基盤の構築を中心とする登山者の利用動態を含む各種研究系プログラムを実施するとともに、旧尾瀬の自然を守る会等の地域自然保護団体・山岳関係団体による合同自然保護委員会・県内報道機関・戸倉地区の観光業従事者を中心とする地域社会に対し、定期的な進捗報告と状況解説を実施。

## 3) 公園計画改定

至仏山植生荒廃問題、携帯電話施設計画問題等が顕在化したことにより、環境省地区事務所が国立公園尾瀬地区全体の公園計画の見直しを計画。これに対する提言の構造づくりを群馬県並びに尾瀬保護財団に働きかけるとともに、環境省と地権者である林野庁・東京電力に対し協力を要請。

## 4) 域内自然保護問題

尾瀬沼畔の山小屋による廃棄物の違法処理、尾瀬沼畔での資材搬入用ヘリポート新設計画が問題化したことに対し、報道機関からの取材に適宜対応、国立公園特別保護地区のあるべき保全管理の観点からコメント提供。

## 2.保護研究事業

### (1) 保護系プログラム

#### 1) 海辺(干潟・藻場)

沖縄ジャングサウオッチ(一部、自然保護助成基金より助成) / 沖縄県名護市辺野古・嘉陽地区において、市民参加による海草藻場の環境把握のための定期調査「沖縄ジャングサウオッチ」を4回実施。NPOサステナによる「ジュゴンチェーンアクションTシャツ展」企画からの寄付により気球を購入し、嘉陽地区において海草藻場の空中撮影調査を実施。

中城湾泡瀬干潟(自然保護助成基金・WWF日興グリーンインベスターズ基金より助成) / 泡瀬干潟自然環境調査委員会を立ち上げ、地形、海藻草類、貝類、シギ・チドリ類等鳥類の生息状況など総合調査を実施するとともに、事業者の設置した環境監視委員会に委員として参加し、埋立事業の見直しと現存する自然環境の保全を求める意見を提出。

東京湾三番瀬 / 千葉県による三番瀬再生計画検討会議(三番瀬円卓会議)に委員として参加し、再生計画の策定に参画。

有明海・諫早干潟 / 前年実施した「ありあけ大調査」をもとに、科学的な影響のメカニズムを紹介したビデオ『ありあけ・いさはや、宝の海のメカニズム』(NPOサステナ制作)を有明海漁民・市民ネットワーク、諫早干潟緊急救済事務所等と共同で販売普及。

吉野川河口干潟 / 徳島県による東環状道路橋建設に対して地元団体を支援し、WWFジャパンと共同声明を発表。

## 2) 河川

川辺川（一部、自然保護助成基金・日本科学協会より助成）／川辺川ダム建設をめぐる県民討論集会において、アユ、付着藻類、クマタカ、洞窟生物等の調査結果をもとに、ダム計画が河川環境に与える影響に関して国土交通省と公開討論を実施。市民参加による調査の結果をまとめた報告書『川辺川ダム計画と球磨川水系の既設ダムがその流域と八代海に与える影響』を発行し、「川辺川を調べてみえてきたこと～川辺川・球磨川環境調査報告会」を開催（10/10、於：熊本県青年会館、約150名参加）。さらに、球磨川・川辺川におけるチスジノリ等の希少な淡水性紅藻類の緊急調査を実施し、天然記念物指定など保全を働きかけ。利根川／利根川河口堰の上流部に発生した冬季の赤潮を緊急調査し、結果をリリース。淀川／国土交通省近畿地方整備局による淀川水系流域委員会に委員として参加し、河川整備計画原案の作成に対して意見。

## 3) 特定地域

沖縄本島やんばる・八重山／普天間基地移転計画（防衛施設庁）、新石垣空港計画に関わる環境アセスメント（沖縄県）、浦内川河口リゾート許認可（竹富町）の状況モニター、地域自然保護団体への情報伝達、報道機関への取材要請を実施。小笠原諸島／島内会員・関係機関との情報交換および課題整理を継続し、今後の活動を検討。愛知県海上の森／2005年日本国際博覧会協会による海上地区会場計画モニタリング委員会に委員として参加し、海上地区会場におけるムササビ調査と保全措置に対して意見。愛知県国際博推進局と会合を持ち、海上の森の長期的保全に意見。以上の経過について、IUCN（国際自然保護連合）と意見交換。宮崎県綾町／九州電力(株)による送電線建設計画に対して、現地調査にもとづいて緊急声明を発表。

## 4) 法制度

野生生物保護制度／基本法の制定をめざし、「野生生物保護基本法制定をめざす全国ネットワーク」とともに法制局へ協議を働きかけ、市民へ賛同を呼びかけ。『生態学からみた野生生物の保護と法律』（講談社サイエンティフィック）を出版し、シンポジウム「生態学からみた野生生物の保護と法律～日本の生態系を守るために～」を開催（2/8、於：東京大学弥生講堂、共催：東京大学21世紀COEプログラム「生物多様性・生態系再生研究拠点」、約280名参加）。環境省による野生鳥獣保護管理検討会に委員として参加し、鳥獣保護法の改正に関して意見。その他法制度／外来種対策法案に対し、具体的な実効性を図られるよう、WWFジャパン・日本野鳥の会・地球生物会議との共同で修正を働きかけ。

## 5) その他国内保護

地域NGO等との連携により、各地の自然保護問題に意見・コメント等を提出、委員会への参画等の協力。

「第6回早池峰フォーラム」を地元団体と共催開催（11/30、共催：同実行委員会、於：岩手県大迫町民会館、約100名参加）したほか、自然保護に関わる各種催事等に後援・職員派遣等の協力。＜別表1＞

自然保護に関わる研修等の講師への職員派遣 / 林野庁森林技術総合研修所、国土交通大学校、東京都山岳連盟、国立科学博物館自然教育園等にて実施。

#### 6)自然保護ライブラリー（一部、J.INOUYE基金を活用）

書籍・報告書・ニュースレター等の登録・分類のほか、データベースおよび検索システムの整備を継続。

#### 7)IUCN日本委員会

当委員会事務局として定例会議を開催。IUCNからゲストを招き意見交換会を実施。当委員会のホームページに子ども向けページを新設。

### (2) 研究系プログラム

#### 1) 植物群落RDB（レッドデータ・ブック）モニタリング

照葉樹林RDBモニタリング / 宮崎県綾町の照葉樹林における調査を計画。屋久島原生自然環境地域モニタリング予備調査を実施。

市民参加の海岸植物群落調査（日本財団より助成） / 調査の目的と参加方法を案内した手引きと調査要項、調査シートを作成。千葉県の海岸で試行調査を実施し、その結果をホームページで公表、海岸植物の分布図や海岸のようす、集計結果を分かりやすく表示。2004年度からの各地での調査実施に先立ち、九州で調査研修会を開催（3/20-21、於：大分県中津干潟、共催：九州自然協議会、約40名参加）。

#### 2) 里やま保全研究

生態系総合モニタリング調査（一部、日本自転車振興会より補助） / 市民参加での里やまにおける生態系の総合的なモニタリング調査手法について検討するため、茨城県土浦市穴塚大池と千葉県千葉市大草の里やまで調査を実施。結果を用いて調査手法をまとめ、自然環境モニタリング調査の手引きを作成・配布。

「人と自然とのふれあい」に関する研究（日本生命財団より助成） / 里やまにおける市民によるふれあい活動（自然観察会、調査、保全活動など）や「人と自然とのふれあい調査」が、合意形成や環境学習の面で里やま保全に果たす役割を明らかにするために、事例収集やデータ解析を実施。

『生態学からみた里やまの自然と保護（仮称）』の出版準備 / 2004年度の発行に向けて、目次構成の作成、原稿執筆の依頼、編集作業を実施。

#### 3) プロ・ナトゥーラ・ファンド助成（自然保護助成基金との共同）

「2001年度（第12期）助成成果報告書」を作成（11月）。2002年度（第13期）助成の運営を管理し、成果報告会を開催（12/13、於：東京・こどもの城、約100名参

加)。2003年度(第14期)助成の募集・審査・助成を実施。 <別表2>

### (3) 受託プログラム

#### 1) 国際生物多様性情報の収集(環境省より請負)

南アフリカ・ダーバンで開催された第5回世界公園会議(9月)、スリランカ・コロンボで開催された第3回アジア自然保護フォーラム(12月)に出席。収集情報を報告書・CD-ROMにまとめ、一部をIUCN日本委員会ホームページで紹介。

#### 2) 小笠原村南島自然環境モニタリング(東京都より受託)

小笠原諸島南島において、適正な利用と自然保護を目的に、気象観測、帰化植物の侵入状況、海鳥およびクマネズミの生息状況、観光客の利用状況、自然観察路や植生回復実施箇所の微地形変化、植生変化について調査を実施し、保全のための提言をとりまとめ。

#### 3) 小笠原国有林南島モニタリング(林野弘済会より受託)

小笠原諸島南島において、植生回復事業箇所と自然観察路の微地形変化および植生変化についてモニタリング調査を実施。

#### 4) モニタリングサイト1000里山地域調査の準備(自然環境研究センターより請負)

基礎的な環境情報を継続的に収集し、生物種の減少や生態系劣化等の兆候の早期把握を目的とする、里地における市民参加のモニタリング調査の企画書を作成。

## 3.普及広報事業

### (1) 広報系プログラム

#### 1) NACS-J広報

NACS-Jホームページの内容・構成をリニューアルし、運営を継続。リニューアル後のトップページのトータルアクセス164,047件/日平均約597件、ユニークアクセス109,274件/日平均約413件(7/1~3/31)。

#### 2) 会報『自然保護』発行

誌面のあり方に関する検討/外部協力者3名と役職員3名からなるワーキンググループを設置、定期ミーティングを月1回開催し、誌面刷新の方向性や毎号の企画・構成について検討するとともに、特集ページの内容充実と読みやすい誌面づくりを目標に2004年度の改訂計画を策定。

会報『自然保護』の発行/年6回発行(第473号~第478号)、各約18,000部、全号40頁(カラー24頁、モノクロ16頁)。会員数に伴い発行部数は前年とほぼ同レベル、会員読者からの感想、寄稿等が増加。誌面企画による広告を募集、申し込みは前年とほぼ同レベル。

### (2) 環境教育系プログラム

## 1) 環境教育事業に関する検討

理事3名と職員3名からなるワーキンググループを設置、定期的にミーティングを7回開催し、指導員養成を中心とする環境教育事業全般に関して検討。

## 2) NACS-J自然観察指導員の養成

NACS-J自然観察指導員講習会の開催 / 17回開催、登録者計997名(15頁、別表3.)、第1回からの総受講者数は20,017名。

NACS-J自然観察指導員フォローアップ研修会の開催 / 4回開催、参加者計80名(15頁、別表4.)。

自然観察指導員養成講師会議の開催 / 今年度講習会の振り返りと次年度講習会に向けた情報共有のための意見交換を実施(2/29)。

自然観察指導員連絡会等の活動支援 / 地区交流会・記念総会等へ出席・講演の協力。

自然観察指導員への外部からの協力依頼の仲介 / 原稿執筆、観察会リーダー、総合学習の協力者等。

## 3) 「NACS-J自然しらべ2003～日本全国カメさがし」の実施

外来種の侵入が深刻な問題となっているカメをテーマに、地域での自然観察活動の機会を提供(協力:日本カメ自然誌研究会、協賛:(株)サニクリーン、webGIS制作協力:(株)ネイチャースケープ、調査期間:7/1～8/31、結果発表:11/18、参加人数:延べ1,029名、観察数:延べ809地点・5,966頭、紹介媒体:新聞・テレビ・ラジオ・雑誌など約70媒体)。

## 4) 自然観察会の開催

「ネイチャア・フィーリング自然観察会」の開催 / 「第15回新宿御苑みどりの日の集い」の一環として開催(4/29、於:新宿御苑、ボランティアリーダーを含め約100名参加)。

「全国一斉観察会2003」の開催 / 「自然しらべ2003」と連動し、カメさがし観察会として各自然観察指導員連絡会等との共催形式で実施。

## 5) 外部事業への協力

環境教育に関わる各種の催事等に後援・職員派遣等の協力(13頁、別表1.)。環境教育に関わる研修等の講師への職員派遣 / 横浜市スポーツ振興事業団、文部科学省拠点システム構築事業・途上国の教員を対象にした環境教育研修とその国際教育協力に関するワークショップ、環境研修センター等。

## (3) 会員拡大系プログラム(一部、牧田基金を活用)

### 1) 個人会員拡大事業のあり方に関する検討

外部協力者3名と役員3名からなるワーキンググループを設置、定期的にミーティングを開催し、会員拡大事業の方針の検討や各種企画の立案・点検を実施。

## 2)参加の場の提供を中心とした個人会員入会プログラムの企画・試行

「リアルネイチャー・キャンプ」の実施/フィールド体験に関心がある人を対象に、AKAYAプロジェクトのフィールドを使った自然観察ツアーを企画、試行(10/13-15、3/13-14、延べ約40名参加)

「企業人向けリアルネイチャー・セミナー」の開催/業務と自然保護の関わりについて課題を抱えている企業担当者を対象に、情報提供とディスカッションを目的とした3つのシリーズのセミナーを企画、試行(パート1:6/6、7/4、8/11、9/5、10/3、パート2:1/30、2/5、3/13、パート3:3/20、於:東京・ココデシカ・セミナールーム等、延べ約200名参加)。参加企業約40社に、その後の寄付・協賛関係を働きかけ。

「学生向けリアルネイチャー・セミナー」の開催/「自然保護の仕事」をテーマに、業務の実態や就業体験等に関する情報を提供し交流を深めるセミナーを企画、試行(2/27-28、於:東京・モンベルクラブ渋谷店、協賛:シヤチハタ・モンベル、延べ約190名参加)。

## 3)紙媒体を活用した個人会員入会プログラムの充実

「入会パンフレット」の作成・配布協力者の拡大/内容・デザインを一部改訂し、全国約580ヶ所への設置や希望者への無料送付を実施。入会率の高いアウトドアショップ等を中心に、配布協力者を拡大。

「会員証」の作成・配布/会員証と入会・継続に関する案内メッセージを1枚にデザインし、登録後に随時送付する形に変更。

退会者への再入会案内DMの発送/昨年度退会者約1,300名に対し、再入会を呼びかけるDMを送付。

催し物参加者等への入会呼びかけDMの発送/「NACS-J自然しらべ2003~全国一斉カメさがし」の参加者等にDMを送付し、個人会員への入会を呼びかけ。

## 4)外部事業への協力を通じた個人会員入会告知

メディアへの協力/NHK深夜便、読売新聞広告企画、等。

イベントへの協力/エコリーグ合同新入生歓迎会、エコライフフェア、ジュゴンTシャツ展、伊藤忠自然観察会、宮崎県綾ツアー、環境就職進路相談会、わたせせいぞう氏展覧会、小松原るな氏チャリティコンサート、企業の環境ホームページコンテスト、キャンプ&RVショー、リコーボランティアリーダー研修、等。

その他協力/損保ジャパン・インターン制度の受け入れ、清泉女子大学インターン・博報堂NGO調査報告会・宇都宮大学・麻布大学でのレクチャー、等。

## 5)寄付サポーターの拡大

NACS-J事業のPRによる企業協賛寄付・個人募金寄付の拡大/「自然しらべ2003」企画への協賛(サニクリーン)、「ありあけビデオ」販売企画への協力(リンラン、読売新聞関西版)、寄付システムを持つ外部ホームページへの協力(5ヶ所)等を依頼。

「NACS-J自然保護寄付パンフレット」の作成・配布/NACS-J自然保護寄付への

協力を呼びかけるパンフレットを新たに作成し、会員に配布するとともに、保護研究事業の関係地域を中心に配布協力を依頼。

企業等による寄付協力企画の受付／衣類、カレンダー、美術作品、自動車、食器、日用雑貨等の販売収益からの寄付企画等に対し、支援を依頼。

#### 6)電子媒体による情報発信

電子メール「自然保護ニュース」／NACS-Jの活動紹介を中心に無料配信（月に約2回、登録者約10,000名）。

### 4.会員管理・サービス事業

#### 1)NACS-Jアイテム販売

主催行事や事務局での直接販売、合資会社狼森によるカタログ通信販売を通じて、自然保護や自然観察に関する資料・物品の販売普及。

#### 2)会員管理

毎号の会報発送時に個人会員へ登録継続を依頼するとともに、会費自動引落システムのPR等、登録に関する案内情報を伝達。「年次活動報告」掲載会報の発送時に賛助会員・団体会員へ登録継続を依頼し、登録に関する案内情報を伝達するとともに、問い合わせのあった団体・企業等に入会を呼びかけ。寄付サポーターへ、「年次活動報告」掲載会報を送付し、支援を呼びかけ。賛助会員企業によるDM発送を受付（2回）。

### 5.その他事業

#### 1)日本自然保護協会沼田眞賞

第3回の授賞者を募集・選考・決定。授賞者は、東京学芸大学教授・小泉武栄氏（生物的・地形的自然の保護、山岳景観や高山植物の保護に対する国民の関心を高めることに貢献）、成東・東金食虫植物群落を守る会（千葉県成東・東金において食虫植物群落の保全と管理、研究教育に貢献）。授与式および記念講演会を開催（11/15、於：千葉県立中央博物館、約80名参加）。

#### 2)事業体制の整備・強化（運営基盤整備積立預金を活用）

会員や寄付等の支援者拡大、活動力および社会的認知の向上、地域との連携の向上につながる事業体制の構築等の検討を継続。

事務局内コンピューターネットワークの改良・管理体制の整備により、業務効率を向上。

---

#### <別表1.> 自然保護に関わる催事等への後援・協力・職員派遣一覧

（ ）内は主催団体と開催時期



- 2003年度アウトドアレクリエーションクラブ (群馬県立尾瀬高等学校自然環境科卒業生の会)
- ヒメボタルサミットin愛知 (同実行委員会、4/22 - 5/25)
- 第20回自然は友だち～わたしの自然観察路コンクール (国立公園協会、6/1 - 9/19)
- 彩の国環境地図作品展 (同実行委員会、6/1 - 12/31)
- 中・四国環境教育ミーティング2003 (中・四国環境教育ネットワーク、6/20 - 22)
- 第6回 (2004年) 「日本水大賞」 (日本水大賞顕彰制度委員会)
- 三番瀬フェスタ (同実行委員会、7/6 - 8)
- 第44回夏休み子供自然観察教室 (利根沼田自然を愛する会、7/27)
- 第9回コウモリフェスティバル2003 in上野動物園 (コウモリの会、8/2 - 3)
- 四国ナショナルトラストエコツアー (高知県生態系保護協会、8/22 - 25)
- 講演会「人とクマとが共生する世界を目指して」 (NPOピッキオ準備委員会、9/1)
- 第4回ライチョウ会議 (同実行委員会、9/6 - 7)
- 第22回日本環境会議滋賀大会 (日本環境会議、9/13 - 15)
- 第16回日本の森全国集会Inみやぎ (日本の森と自然を守る全国連絡会、9/13 - 15)
- SAVE21東京湾まち育てコンテスト連続ワークショップ (SAVE21実行委員会、9/13、11/15、2/21)
- 第28回全国高校生デザインコンクール (東京キリスト教青年会、9/30)
- 第4回千葉県自然観察指導員研修会～フォローアップ研修～ (千葉県自然観察指導員協議会、10/25 - 26)
- せたがやトラストウィーク2003 (せたがやトラスト協会、11/5 - 9)
- カラスフォーラム2003 (日本野鳥の会東京支部、11/8)
- ジェーン・グドール博士による講演会(NPOジェーン・グドール・インスティテュート・ジャパン、11/13 - 16)
- 東北自然保護のつどい (同福島県実行委員会、11/22 - 23)
- 自然観察プログラム作り～自然観察会ははじめの一步～研修会 (みのお山自然の会他、1/10 - 11)
- EARTH VISION 第12回地球環境映像祭 (アース・ビジョン組織委員会)
- 吉野川河口のひがた展「100年後の子どもたちへの贈りもの」 (とくしま自然観察の会、2/6 - 8)
- 新潟県自然観察指導員の会20周年イベント (同実行委員会、2/15)
- シンポジウム「海から見た川・山」 (酒匂川水系の環境を考える会、2/22)
- 調査報告会「ひろしまの「生命の森」細見谷溪畔林その未来を問う」 (森と水と土を考える会、3/6)
- 2004九州環境教育ミーティングin湯布院 (同実行委員会、3/6 - 7)
- 第1回生物多様性シンポジウム「外来種に侵略される生きものたち」 (同実行委員会、3/14)
- 講演会「自然保護と自然観察」 (山形県八幡町、3/20 - 21)
- シンポジウム「翼が結ぶ重要生息地ネットワーク～IBA基準生息地を守ろう！」 (日本野鳥の会、3/21)
- 新潟県自然環境保全連絡協議会 (仮称) 設立準備フォーラム (同実行委員会、3/28)

## &lt;別表2.&gt; プロ・ナトゥーラ・ファンド2003年度(第14期)助成先一覧

No.	テーマ	国内グループ名・海外申請者名	助成額 (万円)
国内研究助成			
1	南大東島に隔離分布するダイトウコノハズク個体群の保全に関する研究	ダイトウコノハズク保全研究グループ	123
2	父島のオガサワラオオコウモリの保全生態学的研究(継続)	オガサワラオオコウモリ研究グループ	83
3	世界最南限のイワナ個体群”キリクチ”の保全生態学的研究(継続)	淡水生物研究会	80
4	スキー場を集水域に持つ河川に見られる窒素汚染	長良川・溪流の保全を考える会	80
5	亀岡産アユモドキの生活史とハビタット利用に関する研究 - 水田水域生態系のシンボルフィッシュ -	亀岡・人と自然研究会	90
6	屋久島原生自然環境保全地域におけるスギ林の20年間の森林動態	ヤクスギ原生林研究グループ	80
7	関東周辺のヒメコマツ個体群の現状とフェノロジー比較	房総のヒメコマツ研究グループ	90
8	西表島浦内河口域の生物多様性と伝統的自然資源利用の総合調査	西表島浦内川流域研究会	100
9	西表島における亜熱帯林の再生動態と種多様性保全に関する基礎的研究	南西諸島亜熱帯林研究グループ	53
10	エゾシカの餌選択とミネラル要求性	道東エゾシカ研究グループ	85
11	ツキノワグマ四国幡多地域個体群の生息状況把握	特定非営利活動法人 四国自然史科学研究センター	89

12	金沢城公園における樹木伐採等の攪乱が動植物の生態系に及ぼしつつある影響	金沢城公園生態系保全研究会	100
13	炭素・窒素安定同位体を用いたツキノワグマの「駆除」個体の生息環境履歴の解明	信州ツキノワグマ研究会	116
国内活動助成			
14	蒲生干潟の保全：「蒲生干潟の明日を考える集い」の開催と鳥類生息調査報告書の出版	蒲生を守る会	65
15	三浦半島（神奈川県）におけるトウキョウサンショウウオ遺伝子の多様性の保護	三浦半島自然誌研究会	70
16	普天間飛行場代替施設（辺野古沖軍民共用空港）建設計画に係る市民からの環境影響評価（アセスメント）	市民アセスなご	110
17	宮崎県内におけるイヌワシ調査と保護活動	NPO法人ひむか里山自然塾	100
18	絶滅危惧種ヒヌマイトトンボの生態学的研究と観察会による保全活動	自然史教育談話会	100
19	かながわ野生化アライグマの分布調査と普及啓発パンフレットの作成	かながわ野生動物サポートネットワーク アライグマ・プロジェクト	45
20	ゼニタナゴ保全運動（ゼニタナゴシンポジウム）	ゼニタナゴ研究会	70
21	「（仮題）続 里山の暮らし 土浦市宍塚」の作成	宍塚の自然と歴史の会	100
海外助成			
22	中国海南島におけるカワウソ2種の保全生物学的研究	李 玉春	120
23	インドネシア、パプア州ジャムルスバメディ地域における絶滅に瀕したオサガメ個体群を保護するためのふ化率調査	Akil Yusuf	135
24	ネパール熱帯域における生物多様性に関する研究	Keshab Shrestha	116
助成金総額			2,200

&lt;別表3.&gt; NACS-J自然観察指導員講習会開催地一覧

No.	開催日	開催地	会場	共催団体	参加者数
327	5/23～25	千葉県	千葉市ユース・ホテル	NACS-J主催	50
328	6/20～ 6/22	秋田県	秋田県立大館少年自然の家	秋田県	60
329	6/27～29	兵庫県	兵庫県立淡路園芸景観園芸学校	兵庫県立淡路園芸景観園芸学校	59
330	7/19～21	神奈川県	富士ゼロックス(株)塚原研修所	富士ゼロックス株式会社	61
331	8/1～3	新潟県	ホテル大自然館	新潟県	65
332	8/8～10	滋賀県	朽木セミナーハウス	京都精華大学	49
333	9/5～7	三重県	合歓の郷	三重県、自然観察指導員三重連絡会	64
334	10/3～5	北海道	しらおい保養ホーム	(社)北海道自然保護協会	63
335	10/11～ 13	青森県	青森市青年の家	ウォッチング青森	57
336	10/24～ 26	鳥取県	鳥取県立船上山少年自然の家	自然観察指導員を鳥取で育てる会	57
337	11/1～3	愛知県	ユースホテル犬山国際	愛知県	63
338	11/14～ 16	埼玉県	勤労青少年フレンドシップ・ハイツ	埼玉県	61
339	11/22～ 24	大阪府	箕面市立教学の森野外活動センター	NPO法人みのお山麓保全委員会	61
340	11/28-30	山梨県	山梨県立愛宕山少年自然の家	NACS-J主催	61
341	3/5～17	鹿児島県	国立大隅少年自然の家	独立行政法人国立大隅少年自然の家	58
342	9/13～15	新治村	新治村農村環境改善センター / 実習：川古温泉周辺	NACS-J主催	48

343	3/12～14	相模原市	相模川清流の里	相模川を愛する会	59
-----	---------	------	---------	----------	----

<別表4.> 自然観察指導員フォローアップ研修会開催一覧

No.	開催日	会場	テーマ	共催団体	参加者数
121	7/23～25	長野県白馬村、星と嵐	観察会の基本	しろうま自然の会	11
122	7/25～27	長野県白馬村、星と嵐	絵本と小道具	しろうま自然の会	8
123	9/5～6	佐賀県鹿島市、七浦公民館	どろ干潟研修会	佐賀県、ネイチャー佐賀	16
124	2/21～22	東京都八王子市、大学セミナー・ハウス	自然観察会でのリスクマネジメント研修会	自然観察指導員東京連絡会（ナコット）	43

Copyright(c)2004 THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN, All rights reserved.